



凡例

中小水カゾーニングマップ

- } 調整エリア
- } 保全エリア

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して使用

図 5.8-2-2 中小水カゾーニングマップ

中小水力発電

中小水力発電の導入により懸念される事項を以下に、それらに対する配慮事項を表5.9-2に示す。

○懸念される事項

- ・発電施設の設置後の騒音により、周辺住民とトラブルが発生する可能性がある。
- ・発電施設の故障・水没時に潤滑油等の流出による水質悪化が考えられる。
- ・魚類の遡上降下に大きな影響を与える可能性がある。
- ・取水口ならびに放水口からの魚類の迷入・吸い込みがある。
- ・魚道が設置されている堰等に設置する場合、誘導を妨害する可能性がある。
- ・樹木伐採や地形の改変等により生物・生態系に影響を及ぼすおそれがある。

表 5.9-2 中小水力発電に係る環境配慮事項

項目	配慮事項
騒音	発電設備を設置する地点が住宅等の近傍に位置する場合など、地域の特性に応じて生活環境対策を検討すること。 また、地域住民に対する説明を行い、合意形成を図ること。
水質	オイルレスの設備を選定する等、油分の流出に配慮した設計にすること。
魚類	内水面漁業協同組合または魚類の専門家にヒアリングを行い、生息魚種や産卵状況、遡上降下など生息状況を把握すること。 魚類などの生息に問題が生じるような場合には、容易な代替策、回避策（水車選定、魚道等工事の難易度）が採用できる地点を選定すること。
動植物の重要な種、注目すべき生息地	有識者から希少生物が生息する可能性を指摘されているシコクハコネサンショウウオ、イシヅチサンショウウオの他、アカザ、ナガレホトケドジョウ等の重要種の生息の可能性があるため、事前に現況把握すること。 なお、トビケラ目（カワトビケラ科、イワトビケラ科）、カワゲラ科、アミカ科などについては、四国内に生息する種については、現行の図鑑類で同定不可能な種も含まれていると考えられるが、少なくとも科・属まで同定すること。
その他	設計・施工にあたっては濁水対策、周辺環境への配慮、安全対策に留意すること。また、周辺砂防工事と重複がないか確認し、必要な調整を行うこと。